巻　頭　言

街へ出よう！工業技術センター

～工業倶楽部との連携のもと～

社団法人鹿児島県工業倶楽部会長　川崎　暢義

＜工業倶楽部の今＞

社団法人鹿児島県工業倶楽部は，今年，創立15年目を迎えました。当倶楽部は，異業種間の交流促進及び産学官の連携強化を通じて参加企業の経営基盤の強化，技術の高度化，新製品の開発による新規事業分野への進出を目的として運営してまいりました。

坂元前会長（坂元醸造会長）の発案で発足した「食・運動・温泉融合化研究会」は，有村理事（指宿ロイヤルホテル社長）を中心とした産学官連携による5日間のモニタリングでその有効性が確認されたことにより，研究会としての役割を終えました。新しくは，大隅半島バイオマスタウン研究会が始まります。

秋の祭典，異業種交流フェスタは，年を経る毎に充実して，今や当倶楽部の一大イベントに成長しました。

さらに当倶楽部の知名度をあげながら，かつ，当倶楽部の期待されていることを社会の目線でメタ認知するために，各界各層の方々と意見交換，懇親会を行い定例化しつつあります。鹿児島県，（財）かごしま産業支援センター，工技センター，鹿児島大学（この会合で，院生を対象に地域に貢献的な研究をした2名の学生に，工業倶楽部賞を授与することが決定）南日本新聞社及び県議会等です。その一環として，ものづくりの大先輩，京都工業会との相互交流も始まりました。教えられることばかりです。

さて去年の12月，工業倶楽部を中心として産学官の有志からなる「鹿児島ものづくり懇談会」を発足させ，毎月第三土曜日に5時間に及ぶ議論を重ねております。鹿児島の現状と課題，資源やシステムを総点検しながら潜在的ニーズの掘り起こし，学・官のシーズの産業化の可能性，その活用のために障害の除去と有効なシステムの設計等を検討しております。いずれ，地域産業の振興方策に関する提言としてまとめますが，伊藤知事の所謂マニフェストのブラッシュアップの一助になればと考えております。

＜工業倶楽部のこれから＞

ものづくりの要諦は人づくりです。会員企業と工技センターとの組織的な対話の場づくり，ソニー，京セラ等の一流企業での技術的実学研修，後継者育成等早急に検討しなければなりません。さらに，プラザ，研究会等すべての会合に，「ものづくり懇談会」の中間提言案を報告して全会員から意見を徴する予定です。

＜産学官連携成功の近道＞

鹿児島において産学官連携成功の近道は，差し当っては，企業と工技センター研究員とのマンツーマン共同研究ではないでしょうか。

いくつかの事業化製品がビッグビジネスになりつつあります。留意すべきは，事業化成功企業は，経営モラルとして，開発商品のPRに際しては，共同研究者を同時に同次元で紹介する責務があります。

ところが，多くの中小企業経営者は，本業分野のユーザーニーズを深く理解しながらも，人材や資金の不足のなか，今日，明日の経営に追われて，どこに相談すればいいのかも知らないのが実情です。

工技センターのみなさん！街へ出ましょう。企業を訪問してください。みなさんの組織的・継続的な出前技術相談（指導）が鹿児島を活性化させるのです。

＜連携による成果の適切な還元について＞

06年度からは，公益法人（財団・社団）の設立が簡略化され，それに伴って税制も大幅に見直されて法人，個人ともに寄付金控除が拡大されるようになります。

継続可能な社会の存続のため，工業倶楽部としては，異業種間交流，産学官連携による成果の適切な還元をファンドとしてプールし，異業種交流，産学官連携等を含めた地域産業活性化，大学や工技センターのさらなる研究開発，その他社会貢献活動等の有効活用に資することができないでしょうか。

一人で見る夢は夢で終わりますが，みんなで見る夢は現実となります。小さくともしっかりした理念と使命を持ったファンドの創生を，みんなで研究し実現したいものです。